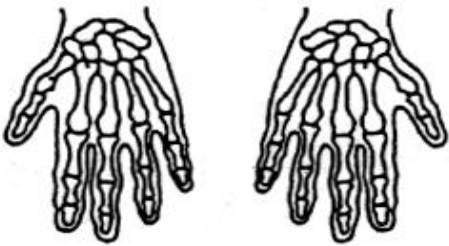
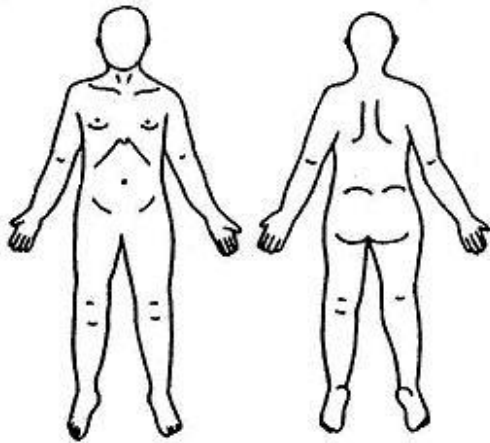


肢体不自由の状況及び所見

神経学的所見その他の機能障害（形態異常）の所見（該当するものを○でかこみ、下記空欄に追加所見記入）

1. 感覚障害（下記図示）：なし・感覚脱失・感覚鈍麻・異常感覚
2. 運動障害（下記図示）：なし・弛緩性麻痺・痙性麻痺・固縮・不随意運動・しんせん・運動失調・その他
3. 起因部位：他
4. 排尿・排便機能障害：脳・脊髄性・末梢神経・筋肉・骨関節・その他
5. 形態異常：なし・あり
- ：なし・あり

参 考



右

左

右		左
	上肢長 cm	
	下肢長 cm	
	上腕周径 cm	
	前腕周径 cm	
	大腿周径 cm	
	下腿周径 cm	
	握力 kg	

× 変形 切離断 感覚障害 運動障害

切断・離断の場合（該当項目に○を）

切断部位	上腕・前腕		上腕・前腕	
	1/2（以上・未満）切断		1/2（以上・未満）切断	
	離断関節：		離断関節：	
	大腿・下腿		大腿・下腿	
注： 上腕は腋窩より、 大腿は坐骨結節の高さより計測	右	1/2（以上・未満）切断	左	1/2（以上・未満）切断
		離断関節：		離断関節：

（計測法）

上肢長：肩峰 → 橈骨茎状突起
下肢長：上前腸骨棘 → （脛骨）内果
上腕周径：最大周径
前腕周径：最大周径
大腿周径：膝蓋骨上縁上 10 cm の周径
（小児等の場合は別記）
下腿周径：最大周径

* 手指の欠損については切断部位を図に明記下さい。
身体障害者福祉法ではおや指は指骨間関節以上、その他の指は第一指骨間関節以上を欠いたときに欠損とみなします。

動作・活動（自立：○ 半介助又は一部自立：△ 全介助又は不能：×を記入）					右	左
寝返りする				二階まで階段を上る（手すり, 杖, 松葉杖, 装具）		
足を投げ出して座る（背もたれ, その他〔 〕）				二階から階段を下る（手すり, 杖, 松葉杖, 装具）		
正 座		あぐら		横座り	字を書く : 利き手〔 右・左 〕	
背もたれのある椅子に腰掛ける ＊座位保持時間（ 10 分以上・ 分程度）				箸で食事をする（スプーン, 自助具）		
				コップを持って水を飲む		
椅子から立ち上がる（手すり, 杖, その他〔 〕）				歯を磨く		
起立位を保つ（手すり, 壁, 杖, 松葉杖, 装具） ＊起立位保持時間（ 30 分以上・ 分程度）				顔を洗いタオルで拭く		
				タオルを絞る		
家の中の移動（手すり, 壁, 杖, 松葉杖, 装具, 車いす）				背中を洗う		
家の周辺の移動（杖, 松葉杖, 装具, 車いす） ＊歩行距離（ 1km 以上・ m程度）				シャツを着て脱ぐ〔 ボタン: 可・不可 〕		
				ズボンをはいて脱ぐ（自助具, その他〔 〕）		
バスなど公共の乗り物の利用				排泄の後処理をする		
注 : 身体障害者福祉法の等級は機能障害（impairment）のレベルで認定されますので （ ）の中に○がついている場合, 原則として自立していないという解釈になります。						

関節可動域(ROM)と筋力テスト(MMT) (この表は必要な障害のある部分を記入)

		筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()	関節可動域	筋力テスト()
		↓	↓	↓	↓	↓
		180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		
		() 前屈		後屈() 頸 () 左屈		右屈()
		() 前屈		後屈() 体幹 () 左屈		右屈()
右 上 肢		180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 外転		内転()	() 内転		外転()
	() 外旋		内旋()	() 内旋		外旋()
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 回外		回内()	() 回内		回外()
	() 掌屈		背屈()	() 背屈		掌屈()
	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180			
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()	
() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()	
() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()	
() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()	
右 下 肢		180 150 120 90 60 30 0 30 60 90		90 60 30 0 30 60 90 120 150 180		
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 外転		内転()	() 内転		外転()
	() 外旋		内旋()	() 内旋		外旋()
	() 屈曲		伸展()	() 伸展		屈曲()
	() 底屈		背屈()	() 背屈		底屈()
備 考						

注：

1. 関節可動域は、他動的可動域を原則とする。
2. 関節可動域は、基本肢位を 0 度とする日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会の指定する表示法とする。
3. 関節可動域の図示は、のように両端に太線を引き、その間を矢印で結ぶ。
強直の場合は、強直肢位に波線()を引く。
4. 筋力については、表()内に×△、4, 5 を記入する。
×：筋力が消失または著減(筋力 0, 1, 2 該当)
△：筋力半減(筋力 3 該当)
4：筋力やや減(筋力 4 該当)
5：筋力正常(筋力 5 該当)

*従来、筋力 4, 5 該当は○での表記でしたが、区別が必要なため、今後は具体的に数字を記入下さい。

5. (PIP)の項母指は(IP)関節を指す。
6. DIP その他手指の対立内外転等の表示は、必要に応じ備考欄を用いる。
7. 図中ぬりつぶした部分は、参考的正常範囲外の部分で反張膝等の異常可動はこの部分にはみ出し記入となる。

例示

(△)伸展  屈曲(4)